

わくわくひろば



サードブックについて

南アルプス市では、家庭における読書の推進と子育て支援のため、4か月児の健康診断で絵本を渡す「ブックスタート」、小学校1年生へ渡す「セカンドブック」を実施しています。それから、小学校4・5・6年生と中学生に「サードブック」として本を紹介することになりました。「ブックスタート」や「セカンドブック」、「サードブック」に関する詳細は、南アルプス市立図書館のホームページに掲載されています。

<https://m-alps-lib.e-tosho.jp>



みなさんが使っているChromebookからも、市立図書館のホームページにアクセスすることができます。



冬休みの前に借った本を
全て返した人から、
三学期の貸出を始められます。
返却日は1月14日なので、
それまでに返してあげると
ありがたいです。

カードを使いましょう

本を30冊読むと新しくなるカードを、図書館にはっています。このカードは、本をもう1冊借りられるプラスカードとして使うことができます。このカードや読書週間にももらったカードは、学年が変わる前に使ってください。



【 元気を出したい時に 】
「ワンダー」
作 / R.J. パラシオ
訳 / 中井はるの
出版社 / ほるぷ出版

主人公オーガストは生まれつきの病気で顔の見た目が人と違います。度重なる手術で学校へ行けなかったのですが、通学が決まり家族は顔のことでいじめられるのではと心配します。でも、この主人公の性格がとても明るいんです！私も祖母に「いつも明るいなぎやだめだよ」と言われたことを思い出して、難しいときもあるけれど、明るい気持ちでいることは自分だけでなく周囲をも変えるのだとこの本を読み納得しました。

【 図書館がもっと好きになれる本 】
「晴れた日は図書館へいこう」
作 / 緑川聖司
絵 / 宮嶋康子
出版社 / 小峰書店

図書館と本が大好きな小学5年生のしおりが、クラスメイトの男の子や図書館司書の従姉と一緒に、本や図書館に関する謎を解いていく連作短編小説です。作品の中に登場する図書館や人を通して、人の心の温かさや人との関わりの大切さを感じられます。小さいころから本が好きだった私は、この作品のプロローグに書かれている文章が強く印象に残り、共感を覚えました。図書館をもっと好きに、もっと身近に感じられる作品です。

【 一歩踏み出す勇気をもらえる本 】
「魔法の宅急便」
作 / 角野栄子
画 / 林明子
出版社 / 福音館書店

魔法は13歳になるとひとり立ちしなければなりません。キキは、黒猫のジジと一緒に故郷を離れ、ひとり暮らしを始めます。学生の頃、キキの言葉が何度も私の背中を押してくれ、誰も知り合いがない環境で頑張っていた自分を支えてくれました。キキは、様々な人との出会いで成長し、その成長を楽しみに待っていてくれる家族がいるから頑張れるのだと思います。温かくて、爽やかな、大人になっても読み返したくなる一冊です。

【 将来やりたいことを探している時に 】
「ことばハンター
国語辞典はこうつくる」
著 / 飯間浩明
出版社 / ポプラ社

著者の飯間さんは、子供の頃から本や辞書を読むのが好きだったそうです。その好きだったことが巡り巡って「国語辞典編さん著」になりました。私は小学校高学年の時に、友達に1冊の本をすすめてもらったことが印象深く残っており、それが司書になるきっかけの一つだと思っています。みなさんのうち、興味あることや体験したことが種となり、将来仕事として花開くかもしれません。自分が好きだと思うことを大事にしてください。